



長野県連婦だより

編集・発行

一般社団法人長野県連合婦人会

会長 中條 智子

〒380-0836 長野市南県町688-2

TEL026-232-6232 FAX026-234-1312

課題解決のために温かく優しい心で行動を

長野県連合婦人会会長 中條 智子



私たちの今の生き方が、次の世代に歴史認識として残るのです。

5月1日に天皇陛下が即位され令和の時代となりました。多くの人々は平成のように、戦争のない平和な時代であるように、そして若者たちが未来に希望がもてる社会であるようにと願います。

(一社)長野県連合婦人会は、婦人参政権が初めて行使された昭和21年5月に結成され、令和元年の今年74年目を迎えました。この間25年史、45年史、60年史の3冊の記念誌が発行されています。その25年史の中で、高野イシ会長は、戦後の新しい社会に対する期待は男性以上に強いものがあり、また自らも婦人解放に立ち上がろうとする意欲も、多くの婦人の胸に秘められており、社会に向かって走り出さずにはいられない気持ちであったと述べられています。その時から県連婦が一貫して求めてきたものは、①すべての婦人が民主社会の一員としてふさわしい力を養うこと、②婦人の地位向上と生活環境を実質的に豊かにすることでした。このことを実現するために、さまざまな学習活動と社会への参加、活動を意欲的に進めてきました。社会事情に即した社会問題に取り組み、行動を起し、行政や関係機関に訴えてきました。学習面では、昭和31年に第1回婦人問題研究集会、昭和35年に信州婦人大学講座の開講式を行い、アジア財団より補助金を得て、信州大学の先生に講師を依頼し、多岐にわたる分野での講座で意義ある学習が出来たことは、婦人会員にとって教養を積み重ねることに なりました。

現在は「ウィミンセミナーながの」「世界をひとつに平和のつどい」「くらしのフォーラム」等と実践事業を実施する中で、社会の現状を的確にとらえ、課題解決のために、何をなすべきなのかについて取り組んでいます。

人口の減少と少子高齢化、そして^{エーアイ}AI(人工知能)など、テクノロジーの急速な発達により、私達を取り巻く社会は大きく変わりつつあります。現実では、いじめや児童虐待等の考えられない悲惨な事件や事故が多発しています。物質は豊かになりましたが、格差が広がっています。婦人会が結成された時の先輩達の熱い想いを受け継ぎ、次の世代が心豊かな共生社会であるために、私達に何が出来るとのか考えて行動を起す時だと思えます。

私は今年、「今日つんでも明日芽を出す」という八丈島秘草のアシタバを育てています。その植物(命)を大切に、適性に合った育て方で、毎日愛情をもって観察しています。

平和を愛し、命を産み育む経験を通して、個々の課題を地域課題として、英知を結集して取り組むことが必要であると思えます。掛替えのない命を守るために、まず、私達が温かく優しい心で繋がり、命を守るための手助けを前向きに取り組むたいと思えます。



今日つんでも明日芽を出す「アシタバ」

暑い時期に花を咲かせる「クレオメ」



ウィミンセミナーながの2019

期日：令和元年6月11日

会場：長野市生涯学習センター

救急法講習会 「いざという時の為に、あなたにも救える命」

講師 日本赤十字社長野県支部 太田 秋夫氏

「いざという時の為に、あなたにも救える命」と題して日本赤十字社の太田秋夫指導員からの講演がありました。

人が倒れていたり、苦しんでいるのを見かけた時、貴女は何が出来ますか？身近に起こりうる心肺停止。この状態ではまだ死ではありませんと指導員は話され死亡という判断は、医師でないと出来ないと言われました。納得です。であっても救命処置をすれば助かる可能性は、とても大きいのです。

私達も折にふれ見学、体験して来た心臓マッサージとAEDの取り扱い方の知識の必要性を、再認識させられました。

心臓病、脳卒中、呼吸困難、気道異物、大出血、熱中症と、身近で起こりうる重たい話も、ユーモアを入れての話し方で、救われる思いで皆さんとお聞きする事が出来ました。いざという時には、少しの勇



気と、基本の知識があれば、救急の連鎖の一人になれると思いました。救急の連鎖と云っても私達が出来る事は、救急隊に引き継ぐまでの数分を、いかに周りの人々と協力できるか。傷病者の状態を、いかに的確に観察、判断してあげられる!!難しく永遠のテーマの様に思えて来ましたが、私達は、生きて居る以上この様な事態にいつ出逢うか分かりません。そんな時こそ、今日の講演と講習会を思い出して行動に移したいと思いました。

岡谷市 板花 由美子

講演 「新しいお互い様社会の創造をめざして」

講師 長野県健康福祉部 大月 良則氏

地域福祉。福祉とは、人々の暮らしを支える事、ありとあらゆる事につながっている。

福祉がよくなれば、人にゆとりができてくる。そして人の幸せをつくる事が出来る。

今日このごろでは、困った事があっても相談しにくい、迷惑をかけたくない、お互いさまではなくなってきました。一生懸命生きているが、人々にゆとりがなくなっているのではないのでしょうか。

人生100年時代。高齢化への対応は、地域でのつながりが、ますます重要になります。地域で支えながらとにも生きる。社会との接点がなくなってしまうと生活が楽しくなくなってしまいます。またテレビは、話し相手にはなってくれません。年をとっても地域で暮らせるように、またさまざまな障害者の方も、地域の一員として、当たり前で暮らせるように、地域包括体制が必要です。



今話題になっている「8050問題」も80歳代前後の親が50代前後の独身ひきこもり状態等のお子さんを養って、経済的に困難な状況に陥っているという問題ですが、背景としては、家族のひきこもりについて、まわりに知られたくないということから支援を望まないケースがあります。また、地域の支え合いの力が低下したこともあります。

地域に暮らす誰にも、居場所と出番があり、ともに暮らしを支え合う地域共生社会の実現、生きごちのよい社会をつくることを、婦人会で支援出来たらと感じました。

佐久市 奥村 繁子

2019年 世界をひとつに 平和のつどい

期日：令和元年 8月 9日 会場：松代文化ホール

講演

演題「戦後二世半～歴史の変わり目に立って～」

講師 作家・日本ペンクラブ会長 吉岡 忍氏

戦後74年8月9日、「第57回世界をひとつに平和のつどい」が、真田十萬石の城下町松代文化ホールにて開催され、講師に日本ペンクラブ会長吉岡忍氏の講演をお聞きしました。

第二次世界大戦末期、軍部が本土決戦最後の拠点として極秘のうちに、大本営、政府機関等を松代に移すという計画の下に掘削された象山地下壕、ボツダム宣言から3週間で、空襲や広島長崎への原爆投下で80万人が亡くなられた。唯一被爆国広島はウラン、長崎はプラトニウム（プルトニウム）の原爆投下、ウランは自然界や海水の中、世界中にある。日本にもある。

ヨルダンの星降る夜空の下～宇宙の星の爆発で太陽系、地球、生命人類が誕生して20万年位なのに、使用済み核燃料は10万年たたなければ安全性がない。日本人は放射能の怖さを知っている。戦争体験者が減少、悲惨な体験や日本がたどった歴史が正しく伝えられることが大切。中国や東アジアへの侵略、植民地解放名目で侵略し、現地の人達を大量に殺り、戦争犠牲者は日本人よりアジアの方が圧倒的に多い歴史の事実を認識すべき。日本の歴史は事実を目をつむる。過去の歴史の認識ができていないと現在の情勢を的確に掴めない。

1世代30年、親、子、孫で戦後二世半。戦争の惨禍を二度と繰り返さない為、令和の時代の平和と安定を脅かす大事が起こらない様、「平和な地球を子供たちに渡す為」ボーとしている時ではない。今でしょ！！

千曲市 宮坂 ケイ子



バイオリン演奏 牧 美花氏

演目「音楽の力を信じて」

吉岡忍先生の熱の入った講演の後、さわやかで又晴れ晴れしいご衣裳で登壇された牧美花さん、左手に大きな障害を持って生まれたが、良き師に巡り合い、人と反対にバイオリンを持つことにより、左手のハンディを乗り越え、年間60回もの演奏活動を行われているとのこと。ご苦労も沢山おありだったでしょう。

バイオリンの音色は心に染み入るものでした。麦わら帽子や花いっぱいの髪飾りなどで、素敵な雰囲気を作って下さり、詩の朗読もありうっとりしました。

演目の「ふるさと」では、会場から自然とバイオリンに合わせて歌声がこぼれ、アンコールの「花は咲く」では会場中大合唱で感動の渦でした。



「音楽の力を信じて」の演目どうり力強く華麗に生きる彼女の生きざま、と演奏はとても素晴らしい時間でした。感謝の言葉を送りたいです。

上田市 田中 晃子

平和のつどい感想

- ・午前中見学と午後講演のプログラムは良かった
- ・とても良い内容だったのに、新聞等に載らないのはもったいない。
- ・地下壕も見られてよかった。良い研修になった。
- ・牧さんのお話やバイオリンの温かみややさしい音色が素晴らしかった
- ・ウイミンセミナーでのワークショップで同じ班になった他地区の方とつながりができ、駅や松代象山地下壕まで送迎してもらい大変助かった。
- ・他地域の送迎のお手伝いをし思いやりの気持ちで対応ができた。このような良いご縁を続けていきたい。